

令和6年度 大阪市立美津島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標をもち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	126	53	46	6.3	16.0
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	120	62.3	48.7	48.8	52.1	55.2	6.4	5.3	15.5	4.1	7.1
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.3	53.6	5.3	5.0	14.8	4.4	6.9

※ 3年生の理科はC問題を選択

令和6年度 大阪市立美津島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○3年生 チャレンジテスト

＜国語＞総合点は大阪府平均と比較して－2.9点であった。内容別では「話すこと・聞くこと」が－0.2点、「読むこと」が－0.7点に対して、「書くこと」の領域が－1点と比較的差が開いている。評価の観点別でも知識・技能が－1.1に対して思考力・判断力・表現力が－2点と開きがある。

＜数学＞大阪府と比較して平均点は－0.3点であった。記述問題や証明問題が大阪府と比較して平均点が低く、苦手とする生徒が多い。無解答率も大阪府より高かった。

＜英語＞府平均プラス1.6点であった。前年度の同母集団との比較で考えると前年度はマイナス2.4ポイントだったので、成長がみられた。

定期的に単語テストや文法確認テスト等を実施することで、基礎・基本の定着と家庭学習の習慣化に努めたことが向上につながったと考える。一方「聞くこと」「書くこと」の平均点は「読むこと」と比較するとやや低かった。

＜理科＞府平均と比べて－0.2ポイントで2年次のチャレンジテストよりも高い値となった。エネルギーの範囲が府平均よりも低い値となった。

＜社会＞年度間の比較をすると、昨年度は府平均－0.8ポイント、今年度は－1.7ポイントであった。

分野別にみていくと地理は府平均29.5に対して本校は29.4、歴史分野は府平均21.0に対して本校は19.2であった。問題形式別にみると記述式の正答率は上回っているものの、選択式は府平均をわずかに下回り、短答式の正答率は1割程度下回っている。

【今後に向けて】

○3年生チャレンジテスト

＜国語＞生徒の主体的・対話的な学習活動を通して、積極的に「書くこと」に取り組ませ、自分の意見や考えをまとめる力をつけさせたい。

＜数学＞授業で、課題である記述式の問題や思考・判断・表現の問題に取り組んでいきたい。引き続き、宿題を出して復習する習慣をつけさせ、学力向上に努める。

＜英語＞基礎・基本の定着のための小テストは継続しつつ、英語で表現する力を養うため、ライティング活動やインタビューテスト、ペアワーク等も取り入れていき、読解力や応用力の向上、また積極的に英語を発信しようとする姿勢も育みたい。

＜理科＞記述式の問題が－0.3ポイント低かった。論理的に物事を説明する力の育成が必要である。

＜社会＞歴史分野において府平均と大きな開きがある。歴史分野は思考・判断を問う授業よりも知識を定着させることに重点を置いた。これからは得た知識を利用して思考・判断できるようになる必要がある。また、語句を記述させたり、簡単な説明をさせるなどの短答記述を今後は注力していく必要がある。